

# 「平成 28 年度オリンピック・パラリンピック教育推進校」 事業実施報告書

【学校名】舞鶴市立 城南 中学校

【全校児童・生徒数】539名

【テーマ】 ① Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ

- I スポーツへの誘い 自己肯定感の醸成
- II 障害者や高齢者への理解 共生社会の形成
- III スポーツへの関心や競技力向上 スポーツボランティアへの参画
- IV オリンピック・パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信
- V 国際理解教育の推進

【実践研究タイトル】

オリンピックとの交流から学ぶ

【実践学年、部、講座等（学年別・男女別人数）】

第1学年 192名（男 95・女97）  
第2学年 160名（男 70・女90）  
第3学年 187名（男103・女84）

【目的・ねらい】

オリンピック・パラリンピックの価値	友情（○）	卓越（ ）	尊重（○）
	勇気（○）	決断力（ ）	
	平等（ ）	鼓舞（ ）	

オリンピックに出場するなど、競技力の高い選手の話聞くことで、スポーツに関心を持つと同時に、自分の夢に向かって努力する力を育てる。

【種類】

- 各教科（ ）
- 道徳
- 外国語活動
- 総合的な学習の時間
- 特別活動
- 部活動（ ）
- その他（ ）

【実践内容等】

(実践内容)

### 1 事前指導

- (1) オリンピック・パラリンピックの誕生の歴史や実施種目等の学習会
- (2) 舞鶴市出身のオリンピックの紹介
- (3) 講師の小林祐梨子氏のDVDを活用した紹介



## 2 講演会（平成28年12月6日(火)）

講師：小林祐梨子 氏 演題：「人との絆（たすき）に込めた想い」



## 3 事後指導

講演を通じて学んだことや感想をまとめる。

（実践上の工夫点、留意点等）

- 1 舞鶴市出身のオリンピックの紹介等、オリンピックを身近に感じさせるように工夫した。
- 2 小林祐梨子氏の紹介DVDを活用し、講演会に向けて意識を高めさせた。
- 3 地域や家庭にも広がるよう、学校だよりやHP等で紹介した。

（成果）

### 1 生徒の感想

- ・講演を聴いて「家族、仲間、ライバル、恩師」がどれだけ大切な存在なのか分かりました。どんなときも自分は一人ではなく、たくさんの人に支えられている、だからこそ頑張らなければいけないのだと思いました。
- ・何事にも夢や目標を持つことが大切なのだと分かりました。そして、その一番大きな目標の達成は難しいけど、少しずつ中目標や小目標を立ててクリアしていくことが一番の近道なのだと分かりました。
- ・私は3年生ですが、小林祐梨子さんの話を聴くまで勉強に対して気持ちが前向きにならず、近づく入試に自分自身焦っていました。しかし、今日話を聴いて、私は入試に向けて勉強することを決心できました。周りを気にせず自分に集中して、一つのことを追い求めていけばいいんだと、背中を押された気持ちになりました。
- ・僕にはまだ具体的な夢や目標は無いけれど、いつかは見つけたいと思っています。小林さんもオリンピックを目指すきっかけは、とても小さなことだったと言っていたので、僕も夢のきっかけを見つけていきたいです。
- ・僕も将来、オリンピックに出場したいです。そのために毎日の練習を頑張るだけでなく、自主練習をしたりビデオで自分の動作の研究をしたりしています。オリンピック出場はとても大きな目標ですが、実現のためには壁もあると思います。そんなとき自分の力だけでなく、周りから応援される選手になることが必要だと今日の講演で感じました。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題等】

- ・2020年という限られた時間の中で、継続的にオリパラ教育を行うためには、年度当初に指導計画を立てる必要がある。各種プログラムを自校で調達して実施していくためには、時間的なゆとりがない状況である。

